

会議の概要報告	
1. 会議の名称	第2回甲賀市学校再編審議会
2. 開催日時	令和6年(2024年)9月3日(火) 14:00~16:00
3. 開催場所	甲賀市役所 4階 教育委員会室
4. 議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回審議会の議事録確認について</li> <li>・審議項目について</li> <li>・第2次甲賀市小中学校再編計画(たたき台)について</li> </ul>
5. 公開または非公開の別	公開
6. 出席者	西川信廣委員(会長)、大林委員(副会長)、中村委員、福永委員、藤河委員、西川有樹委員、藤岡委員、八木委員
7. 傍聴者数	2人
8. 会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・第1回甲賀市学校再編審議会議事録(案)【資料1】</li> <li>・学校再編審議会「審議項目」について【資料2】</li> <li>・第2次甲賀市小中学校再編計画(基本計画)たたき台【資料3】</li> </ul>
9. 議事の結果概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 審議事項</p> <p>(1) 第1回審議会の議事録について</p> <p>事務局: 甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針に基づき、会議は原則公開とする。また会議の傍聴および議事録の公開を行うが、公開する議事録は概要とする。発言者の名前は入れない。なお、議事録は各委員確認の上、ホームページで公開する。</p> <p>委員: 審議会のメンバーが小規模校に偏っているのではないかという意見を言ったが、記載されていない。</p> <p>事務局: 追記します。</p> <p>会長: 全ての委員の発言を活字化しているわけではなく、事務局でまとめているが、何らかの意図があるような抜粋では困るので、よろしく願います。</p> <p>(2) 審議項目について</p> <p>《事務局説明》</p> <p>会長: 再編が進まなかったという説明であったが、なぜ進まなかった</p>

	<p>のか、事務局としてどう考えているのか。</p> <p>委員：関連して、現計画の総括など報告書としてまとめているものはあるのか。</p> <p>事務局：現計画が現在進行中ということもあり、総括としてまとめたものは現在ないが、市議会でも同様の質問を受けており、回答している。</p> <p>まず1点目として、再編検討協議会を再編の対象となる学校全てに設置したこと。小規模校において、当時の教育環境に特に不満を持っていない方は、現状維持で良いという結論に至ったのではないかと推測している。また、極めて小規模の学校においても、本来であれば、複式学級で授業を進めるところを、教員配置を行い、1学年1学級で授業を行っていたことで、不満を持たれていなかったのではないかと考えている。2点目として、再編検討協議会において、再編の是非を含めて協議いただいたこと。賛成、反対の意見がある中、地域の方は学校がなくなることには抵抗を感じておられる。地域の賑わいがなくなり、地域が衰退するなどの思いを持たれている。保護者が教育の現状を問題視されていなければ、現状維持という結果になる。3点目は、学校を適正規模にするための計画という認識を持たれたのではないかとということ。数合わせではなく、子どもの教育環境を良くするための計画であったが、結果として、配置計画を見れば、数合わせではないかという思いを持たれてしまい、再編が進まなかったと考えている。最後4点目として、統合後の学校ビジョンが弱かったと考えている。計画では統合のあるなしに関係なく、小中一貫教育を進めることとしているが、統合が進まず小中一貫教育も進まなかったという結果になり、小中一貫教育が再編の追い風とならなかったと考えている。</p> <p>委員：前回も話をしたが、当時、市の担当者に一度にたくさんの検討協議会を立ち上げて一気にやるんですか。大変ですね。という話をした。検討協議会の委員は保護者が少なかったと聞いており、保護者の意見がどこまで反映されていたのか気になるところ。</p> <p>事務局：補足ですが、再編検討協議会の委員構成については、各地域にお任せであった。地域によっては委員の人数構成にバラツキがあり、地域の役員の方の意見が強く、保護者がなかなか意見を言えなかったという話も聞いている。</p>
--	--

	<p>会長：「地域」という言葉と「校区」という言葉は違う。小学校の「校区」＝「地域」と捉えているようだが、必ずしもそうではない。「小学校区」、「中学校区」という言葉を使わないと、「地域」という言葉では曖昧になってしまう。地域代表は必ずしも校区内の人とは限らない。「校区」と「地域」の使い分けは必要である。</p> <p>会長：各地域の再編検討協議会の委員の選出方法は、各校区で誰に任されたのか。</p> <p>事務局：甲賀市には複数の区から成る自治振興会が存在する。自治振興会と校区が全て同じではないが、自治振興会に委員の構成、選出を依頼している。</p> <p>会長：保護者代表の大小ある協議会もあり、結論的には計画を支持いただけの学校区が少なかった。2校しかなかったということですね。</p> <p>(3) 第2次甲賀市小中学校再編計画（たたき台）について      ≪事務局説明≫</p> <p>委員：たたき台はこれで大体まとまったものになるのか。まだ追加していくものか。</p> <p>事務局：まだまだ追加していくべきと考えている。</p> <p>委員：計画の位置づけに、第4期甲賀市教育振興基本計画とあるが、これも改訂されることになるのか。</p> <p>事務局：第4期甲賀市教育振興基本計画も現在改訂作業をしているところで、そちらとの整合も図っていく。</p> <p>委員：第4期甲賀市教育振興基本計画はいつ策定することになるのか。</p> <p>事務局：再編計画と同じく、令和7年3月策定となる。現在は、たたき台を作成した段階。教育振興基本計画と審議会の答申は整合を図っていただく必要がある。次回の審議会で、再編に関わる部分の情報提示をする必要があると考えている。</p> <p>委員：この基本計画のテーマの「子どもたちにより良い教育環境の提供」がメインと思うが、前書きの部分が分かりにくい。小規模校でも程度はあるが、少なくとも10数名のクラスでは教育効果はあると確信している。極小規模校は別にして、小規模校だからマイナスというのはあり得ない。地域の方に理解を求めらば、こんな教育、こんな素晴らしい学校を作っていく、そのためには再編が必要だという論理立てをしないと再編はで</p>
--	---

きない。

委員：現計画ができた平成27年3月の時の地域と、10年経った今の地域では状況が全然違っている。やはり小学校区では学校を核として地域づくりがされていたので、学校がなくなると地域がなくなるという意見になったと思う。また、再編検討協議会の報告では、将来を見据え、再編について前向きに検討していく結論を出しているところも7地域ほどある。各地域の状況も10年間で変わってきているので、前回の焼き直しではだめ。甲賀市全体としてコミュニティスクールも10年間で増えてきた中で、現在の計画にはそれを支える地域の存在が後に書かれているが、数合わせではないということをもっと前段に出した方がよいのではないか。

適正規模についても、当時は文科省の基準に合わせて学級の適正規模を示していたが、今はそうではなく、多様性を求める甲賀市の教育とすれば、地域づくりのために学校のあり方を変えていくことが必要だということを出すべきではないか。

会長：小規模というのは単純なクラスの児童数で語れるものではない。そして、中学校区を地域と捉える考え方が主流になりつつある。小学校区で考えると、非常に規模の小さい小学校では、もはや委員の成り手もない。中学校区を地域と考えて、学校運営協議会を置く。小学校が2つあれば、それぞれを部会とする。小規模校では人材が少なく、維持が難しい。地域と共にある学校づくりというのは、非常にメインの考え方であり、審議会を出す答申の前段で書いておきたい。それから、甲賀市は新しい教育を作っていきましょう。そのために今ある小規模校の子どもたちが集まって、保幼小中、時には高校を入れて新しい教育をやります。今通っている学校は残します。そして、学期に1、2回学校へ戻って地域の方と一緒に学ぶ。そういう組織、システムとして残したいという合意だと思います。

委員：今後の児童生徒数の減少が予測されるということだが、3、4年すれば、激変という状況になっている。激変の中に飛び込んでいくという緊迫感の中で、この計画が立ち上げられているという文言があって良いと思う。教育委員会だけではなく、全市をあげてというアピール性も必要かと思う。

会長：「私たちのつくる甲賀市の教育」、「めざす甲賀市の教育」というタイトルをつけて、甲賀市では地域と共に学校づくりをす

	<p>る、どんな教育をやる、みんなが羨ましがって、甲賀の学校に行けばいろんな意味での学力が身につく。そんなアピールできる学校教育を作るんだ。ということを最初に書いて、そのために必要な学校再編を行うという方が伝わりやすい。</p> <p>事務局：今回ご提示した現在の計画も、基本計画という位置付けであり、市の大きな方向性、「子どもたちにより良い教育環境の提供」を目指しているところなので、「より良い教育環境とは何か」、市の考え方を示していくことについては、審議会と並行しながら、内部で検討していきたい。</p> <p>委員：「より良い」とは普段よく使うが、普段から良い教育を受けていると認識している保護者からはこれ以上は求めない、今で十分という意見もたくさんあったと思うので、「より良い」とつけると、相当のインパクトやメッセージ性が必要と思う。</p> <p>委員：子どもが通っている学校は小規模だが、それに対して不満や、合併することが良いかと聞かれると、現状、子どもが満足しているかはわからないが、悪くはないと思っている。今までは何のために合併するかが見えず、謎でしかなかった。財政的なことだと思っていた。</p> <p>委員：保護者や地域の方は、具体的なイメージが起こしにくい。理念とするものと、何がどう変わるのかをわかりやすく伝えないと、心動かされない。新しいものに魅力を感じてもらうことが大事。しかし計画では、リアルで細かなことが言及できない。学校運営側からすると、例えば細かな話になるが、前回の学習指導要領の改訂で、小学校5、6年に教科化された英語が入った。中学校も内容が変わった。その前の学習指導要領では、中学校で扱う語彙は1, 200語だったが、今回の改訂では1, 600～1, 800語。さらにその前は900語だった。英語で扱う語彙が2回の改訂で倍になった。しかも、小学校を引き継いで中学校に入るため、現場の教員は戦々恐々たる思いで授業に臨んでいるのが現状。その時に教科指導の小中連携はすごく大事になってくる。中学校の専門性を持った教員が、小学校へ入ることで、より円滑な連絡もできる。生徒指導上の問題も、5、6年に教科担任制を敷いて、複数の教員が当たることで、落ち着いた学習環境ができる。メリットはたくさんあるが、それは具体的に書けない。ある側面を見ると、学校へ行っているのに、学習塾に行かないと何も追いつかないような現状を感じている方は、より学校で安心して授業してもらえる力をつけて</p>
--	---

	<p>もらえる環境が、再編によって環境が変わることによって、進んでいくイメージができたらもっと良い。実際に教員の数だけでは言えないが、手厚くしようと思うと、組織が大きい方がいろいろできる。小さいと制限を受けるし、教科の専門性を全部揃えることはできない。そうすると、エキスパートが居なかったりするけれど、たくさん組んでいくことによって、幅広く教育の中身を充実させていくことができるので、そういうメリットはすごく感じるの、具体的なメリットをわかってもらえるように、丁寧に説明すると良い。</p> <p>会長：説明会のあり方、説明会を行った各小学校でどこまで説明したのか、誰が説明したのか、今のような話まで踏み込んで新しい甲賀市の学校教育とはこういうものだということを説明する会でなければならない。複数の小学校区で1回やっても良いし、説明会のあり方を考えていきたいと思う。</p> <p>委員：娘が行っていた学校は小規模で1クラス5人だった。学校は統合したが、子どもが10人くらいいたなら、別に不自由はなかったと思う。いじめも少なく済むかと思うので。</p> <p>会長：甲賀市は複式学級をしているのか。</p> <p>事務局：複式学級を解消しているので、していない。</p> <p>会長：学校教育の大きなポイントは、様々な意見や考え方と触れ合うこと。だからある程度のスケールメリットがあるということの説明するしかない。</p> <p>委員：授業を充実させたりすることを細かに説明いただいたら、学習塾に行かせなくても済むとか、保護者として心動かされるかもしれない。やはり、詳しく発信していただきたい。</p> <p>事務局：今後、保護者や学校区にお住いの方々に対する説明会はマストであると考えている。その中で、前回は次の段階として再編検討協議会を設置して進めてきたが、同じような進め方すべきなのか、違う進め方が適しているのかなど、感覚的にでもご意見あれば賜りたい。</p> <p>会長：説明会で説明して、もちろん反対意見の質問もあるでしょうけど、丁寧に説明する。その次にするのは推進会議。そうしないと次の協議会で止まってしまう。全員とは言わないが、納得していただける新しい甲賀の教育の姿が具体的に伝わるのが大事。</p> <p>委員：進め方のところで、またアンケートはとるのか。これから小学校や中学校に入る人にとってみると、幼保の親が対象になってく</p>
--	---

	<p>るので、そこに聞く必要があるのではないか。</p> <p>事務局：保護者に対するアンケートは実施する予定だが、質問事項の内容について検討している段階。アンケート調査を実施する以上は甲賀市の学校教育のあり方を示した中で、それに対する皆さんの意見をお聞きするようにしたい。本計画を策定する中で、一定市の学校教育のあり方を提示できる部分が固まってきた段階で、アンケートを実施すべきと考えている。時期については、審議会開催中に行い、結果についても審議会でも共有していきたい。</p> <p>委員：たたき台の最後の方に小規模校のことについて書かれているが、デメリットばかりでメリットも挙げてもらえないか。小規模校が悪いというわけではないと思うので。教育委員会で小規模校がダメなところは具体的にあるのか。学力的にはどうか。</p> <p>事務局：小規模校が学力が低いというわけではない。</p> <p>委員：今の小規模校でも学力的には問題ないということ。親はそこだと思う。課題の1つに感じているのはPTAの金銭的な負担が小規模校は大きいということ。小学校間での連携はさせていただいているが、小規模校だとバス移動することになり、人数割ると高くなる。あと、今は1人1台タブレットがあり、工場見学もリモートでしてくれるところもある。機材が揃っているので、小規模校同士がリモートで交流することなど、計画として入れていくもの良いと思う。</p> <p>委員：単P（学校単位のPTA）での問題を市P（市PTA連絡協議会）に挙げ、解決していくことや、学校運営協議会の中で、自分たちの学校も地域と連携し、今後どうしていくかという話題が盛り上がってきていないのか。そういうPTAや学校運営協議会などの組織で、甲賀市の教育課題についてあちこちから火の手が上がるような働きかけが必要だと思う。</p> <p>委員：検討協議会のところで話があったが、メンバーだと思う。自治振興会が立ち上がった時、各区と自治振興会が結局二重になっている。自治振興会の長があて職的に回っている。そんな思いの自治振興会で委員を選出して検討協議会が上手く回るのかと思う。地域の思いを持って運営されていないので、検討協議会をするのなら、その辺を考えないといけない。</p> <p>事務局：区長は選挙で選ばれるが、自治振興会はあて職的にポストに就くケースがあることは聞いている。その自治振興会を中心にこの協議の相手方を設定しても、実効力のある協議にはなりに</p>
--	---

	<p>くいと伺っているところもある。今後どのような形で学校区の方に話をすることが、より実効的に、より有効的な取り組みになるか、悩んでいるところ。そんな中で、今までの経験などから、統合時の組織の設置などについて伺いたい。</p> <p>委員：10年前に2校の統合の話があった。反対意見が多く、「統合」という言葉を出すことがタブーであった。地域のホールで説明し、PTAにも説明したが、結果存続することになった。一部若いPTAの役員はそうでない考えを持っていたが、地域団体の意見が強く、立ち入れなかった。当時の協議会の評価としては、再編は無理ということだったが、「統合」というタブーを出して、みんなが拒否反応を起こし、賛成、反対の雰囲気を作り、掘り起こせたというだけでも10年前の成果だと思っている。現在は統合の動きになっているが、なぜ今まで放っておいたのかというPTAからの声が出てきており、やはり若い保護者の声が地域を動かしてきたのだと思う。</p> <p>会長：虎姫で小中一貫校として統合があったが、あれが一つの見える化。義務教育学校は滋賀県で2校しかないが、そういう学校を作っていくことが、新しい教育の見える化だ。例えば、信楽中学校区であれば、小学校も近いし、そこに9年制の学校を作って勉強に行く。そんなイメージが出せれば、甲賀市が求める新しい学校が見えてくる。</p> <p>委員：違う観点から2点思うことだが、学校運営協議会で地域の現状を話すことはあるが、何年後の学校が、子どもがどうなって、これをどう地域の人と作っていくかという話題はまだされたことがない。みんなで作るとか地域住民の思いが、まだそこまで至っていないように思う。</p> <p>アンケートについて、「適正規模」という言葉が使われているが、文科省が言う適正規模をそのまま甲賀市に準用すると、自分の子が通っている学校は適正じゃないのかという話にもなるので、言葉の使い分けも検討いただきたい。</p> <p>委員：先ほど虎姫の統合校の話があったが、他の地域でも小中一貫の動きがあるのかお聞きしたい。</p> <p>委員：今、令和8年に小中一貫で中学校に集めようとしているところがある。</p> <p>委員：小中一貫についていろいろ話しているが、具体的にみなさんと共有できているかなと思う。先生方の話を伺いながらイメージを膨らませていかないと駄目だと思う。</p>
--	--

	<p>委員：小規模校の教員時、穏やかな地域で学校生活を送っていた子どもたちが、もし30人の教室にいたら、もっと学びが広がっていたのではないかと危機感を持った。教員がいくら教えようとしても、それ以上のことを同年齢の子どもたちとの学びでたくさん得る。教員ではカバーしきれない部分がある。学年が上がるほど、その機会を与えてあげたいという思いがあった。理想的に言えば、学年が上がるほど人数が増えていく学校があればよいと思う。社会性を培うという意味でも、学びを広げる意味でも、どの教科をとっても、周りのふるまいを見たり、考えを聞いたりすれば学びが深まるのに、と思っていた。いくら機材を使っても補いきれない、カリキュラム外の学びがたくさんあり、教員ではカバーしきれない部分だと思う。4、5人のクラスではまとまって良いけど、学びの芽を摘んでしまっているという思いは強かった。</p> <p>委員：今言われたとおり、例えば4年生くらいまでは、元の学校に通い、5、6年になれば統合校に行く。そういうことも考えられる。自分は小学校から中学校への異動を経験した。その中で、子どもたちの成長の姿がよく分かった。また、自分のイメージする成長していくであろう姿が描ける。当時小学生の子が中学校に入り不登校となった。保護者も良く知る人で、担任ともいろいろ話しながら良い方法を考え奔走した。結果、学校に戻ってくれて卒業させることができた。教師一人ではだめだが、大勢ならできる。それが小中一貫の素晴らしいところだと思う。</p> <p>会長：今日出席の委員の皆様は、小中一貫教育等についての認識はかなりレベルの高い合意を持たれたのではないかとと思っている。ただ、小学校、中学校を単にくっつけるだけみたいにも思う方もいるので、どこがどう違うかというところの説明は十分に必要とを感じる。</p> <p>(4) 次回審議会について 暫定的に10月1日(火)とするが、欠席者の状況により決定。</p>
10. その他	